

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

内容
【コロナ対応版(時間短縮)ワークショップ内容】 (導入)活動の目的と概要を伝えます。アイスブレイクのための活動(ジャンケンを使ったゲームなど)を行います。 (展開)共演場面の内容を伝えます。遊びを発案する場面のセリフや、遊び場面での身体表現などを児童と共に考え、創作します。 (まとめ)共演児童を決定します。共演児童は、実際の舞台と同サイズにテーピングした場所を使い、参加共演場面を演じます。 【共演の内容】 共演の児童生徒は、20人程度(4年生以上)を予定しています。 登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てへびと友達になり、登場人物たちが遊ぶ場面での共演です。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが〇〇した」で遊びます。〇〇の部分では即興的に身体表現を行います。台詞も児童のアイデアを活かして作り、上演校独自の共演場面を創作します。

タイムスケジュール(標準)
感染症拡大防止の為、公演当日または開催時間を縮小してワークショップを実施する場合は以下のタイムスケジュールで実施します。 0～5分＝アイスブレイクの活動 5分～25分＝共演場面の説明、共演場面の創作 25分～45分＝共演場面の練習

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主講師1名、補助者1名 計2名

学校における事前指導
共演場面の内容を漫画やイラストで書いた手紙を送ります。手紙を実施学級に掲示し、児童生徒に周知を図ってください。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

演目
演目:「ともだちやーあいつともだちー」 原作:内田麟太郎(「ともだちや」「あいつともだち」「ともだちごっこ」偕成社) 脚本・演出:佃 典彦(B級遊撃隊) 美術:青木拓也 衣装:木場絵里香 音楽:内田アダチ 音響:椎名 KANS 振付:下出祐子 公演時間(65分)

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
キャスト3名 スタッフ1名 計4名

タイムスケジュール(標準)					
到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去/積込	退出
9:30	9:30~11:30 /11:30~12:15	13:30~14:35	無	15:00~16:00	16:00

実施校への協力依頼人員
・公演実施前 上演演目のポスターを校内などに掲示し、児童生徒への周知にご協力ください。 また、本事業のパンフレットの配布をお願いします。
・公演当日 保護者などがご来場の場合は、保護者受付・携帯電話のマナーに関するのインフォメーションをお願いします。

演目解説

【あらすじ】

一人ぼっちで寂しがりなキツネは、ある日「ともだちや」を始めました。一時間 100 円で「ともたち」になってあげる商売です。のぼりを立て大声で「え～、ともだちやで～す。寂しい人はいませんか～？ 友達、一時間 100 円で～す」と呼びかけます。でも、友達って買えるのかな？ 本当の友達って、どんなんだろう？ 友達と心がすれ違っちゃったら、どうしたらいいんだろう？ ちょっとの勇気で、友達が増えるって幸せだね。「ともだち」との様々な心のやり取りを描いた演劇です。

【みどころ】

長年、子どもたちに大人気の絵本「おれたち、ともだち」シリーズの劇化です。低学年も高学年にも共感できる「友達との関わり」を描いており、興味関心を持って楽しく鑑賞できる演劇です。3 人の俳優が 9 役を演じ、友達をめぐる様々な感情や関係の変化を描きます。また、舞台美術の変化や音楽的効果で季節の移り変わりを表現し、観客の想像力を刺激します。キツネやオオカミ、クマ、テン、ヘビなどの動物は、絵本に描かれている姿を忠実に表現しており、見た目にも見応えある演劇です。

「ともだちや ーあいつもともだちー」は、人気絵本シリーズ「おれたち、ともだち」(内田麟太郎作)を劇化した児童劇です。子どもが共感しやすい内容であり、初めて演劇を鑑賞する児童にも楽しく鑑賞でき、また他者とかわりあうことの喜びを強く感じ、共感しあえる作品です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

共演の児童生徒は、20 人程度(4 年生以上)を予定しています。

登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てヘビと友達になり、木の精を囲み登場人物たちが歌い遊ぶ場面での共演です。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが〇〇した」で遊びます。〇〇の部分では即興的に身体表現を行います。台詞も児童のアイデアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。

児童生徒とのふれあい

上演後、バックステージツアーを実施します。限られた運搬量の演目でありながら、見栄え良い舞台装置にするための工夫や、衣裳の早替えの工夫や、俳優が演技をしながら音響の操作を行うための工夫などを見学してもらいます。

舞台裏見学を通して演劇への興味を多方向から持ってもらう事で、舞台芸術に対する興味関心を喚起し、将来の芸術家育成や鑑賞能力向上に寄与したいと考えています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、準備作業の見学や、バックステージツアー、俳優と交流などの児童生徒との触れ合いを自粛することがあります。